

2023年度 保健医療科学研究科(結果)

PLAN(計画)	DO(実施)	CHECK(評価)	ACITON(次への改善)		
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。	D:計画を実行しその効果を測定する。 実施状況(実施率)	C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。 評価	A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる		
1.アドミッション:定員20人の確保を目指す(KPI)。(1)学生募集要項を改訂し、新ディプロマ・ポリシーに適合化させる。(2)学部学生に修士論文中間発表会・最終試験への参加を促す。(3)オンライン個別相談・説明会を行い、応募者を募る。(4)オープンキャンパスでの説明会・研究成果のポスター掲示などを行う。	(1)学生募集要項を改訂し、新ディプロマ・ポリシーに適合化させるべく対応した。(2)守秘に関する誓約の元に在学学生や学部卒業生の修士論文中間報告会・最終試験への参加を委員会の了解事項とした。(3)オンライン個別相談・説明会を実施した。(4)作業療法士制度に係る日本作業療法士協会との連携を目立つページに置き、連携科目対応表をアップした。学生募集のリーフレットを各学科で常時配置、オープンキャンパスで配布し、研究成果(学会表彰者等)をホームページにアップした。	4項目全て実施(100%)	(1)特に問題はなかったことから、適切だったと評価した。(2)2024年度入学者は18名であり、目標の定員20名を2名下回ったが、今年度入学より1名増加した。2024年度の在学学生は35名の予定であり(充足率87.5%)、今年度の33名(充足率82.5%)より増加。(3)修士論文最終試験への学部生参加、オンライン個別相談・説明会への参加がそれぞれ数名あった。ホームページ改訂およびオンライン個別相談・説明会の効果で1名が入学した。(4)単独での入学者数としては明らかにできなかった。 ※今年度の取り組みは一定の効果があったと評価した。	応募者数 19名 合格者 19名 入学者数 18名 科目等履修生 2名	アドミッションポリシーの改定内容を引き続き具現化する。社会人を確保するための試みを遂行する。 ・2025年度入学を開始するため、具体的に遂行する。 ・長期履修制度を検討する。 ・各職域の学会や研修会等でアピールする。 ・引き続き、応募者を増やすために、オープンキャンパスで説明会を設けたり、研究成果のポスターを掲示したりして大学院保健医療科学研究科をアピールする。
2.カリキュラム:授業アンケートでの授業評価4.9(KPI)を目標とする。(1)科目シラバスと新ディプロマ・ポリシーの関連を確認し、適切なカリキュラム構成を保障する。(2)オンラインシステムと対面授業の双方の環境を維持し、授業内容を充実させる。(3)多様な学修動機・目的に応える。(4)適正な教員組織の維持を図る。(5)GCIとの連携を図る。	(1)科目シラバスと新ディプロマ・ポリシーの関連を確認し、適切なカリキュラム構成にた。(2)科目チームを用いて授業情報の通知、オンライン授業と課題設定を活用した。(3)課題研究による修士号授与を認め、2023年度研究科要覧に掲載した。(4)2名の講義担当教員が加わる人事を遂行した。2022年度途中および2023年度就任教員も論文審査の副査を担当した。教員増は学修や研究指導の活性化に繋がった。(5)GCIと連携に向けて検討した。	5項目全て実施(100%)	授業評価前期平均4.61、後期4.60で、目標の4.90を各0.29、0.30、前年度4.70、4.59より下回った。アンケート回収率は前期30.2%、後期41%と悪いため、正確に評価するためにも回答を促す。 (1)授業情報の通知と柔軟な授業形態と、その他2)~5)の取組みが授業評価の改善につながらなかった。	授業評価平均前期4.61、後期4.60	カリキュラムポリシーの改定内容を引き続き具現化する。引き続きオンラインと対面の授業を使い分けて、利便性と学修効果を両立させていく。教員スタッフをさらに充実させて、授業・研究の活性化を図る。大学院生の満足度を上げるために、教育・研究課程のFDを実施し、教員の指導力と大学院生の自主的学修力の増進を図る。
3.アセスメント:学修ルーブリックでの自己評価3.3以上(KPI)を目標とする。(1)英語力を上げる。(2)論文作成に関する指導を充実させる。	(1)海外研究発表英語研修の応募者がいたが、費用面で辞退となった。(2)共通コア科目の中で研究倫理・計画に関する授業を行った。	2項目全て実施(100%)	学修ルーブリックでの自己評価が目標の3.3以上を達成し、前年度の3.23より0.21上昇した。項目別にみると英語力が2.56と前年度より0.56上がったが、論文作成は2.63と昨年度より0.17下がった。取り組みの効果は得られている。	2023年度修了生16名の学修ルーブリック自己評価平均3.44	英語を使う機会を増やし、学生が自信を持てるように、ランゲージラボの利用を促進する。特別研究だけでなく、特論・演習・実験科目の中でも論文作成に関わるスキル獲得を計画的に推進する。
4.研究:大学院生筆頭の年間学会発表・論文投稿数の目標を2年次在籍者数16と同じ16件(研究KPI)とし、2年間で1人あたり1件以上の学会発表・論文投稿を目指す。(1)研究発表を研究科のホームページで公開し、発表を奨励する。(2)研究発表・論文投稿について大学院生同士で情報交換する場を設ける。	(1)研究発表をホームページで公開することとし、発表を奨励した。学会表彰者をホームページで紹介した。(2)研究発表・論文投稿について大学院生同士で情報交換する場を設けることとした。(3)倫理審査申請件数は10件(6件承認、4件審査中)。	2項目全て実施(100%)	学会発表は22件(筆頭18件)、紀要論文投稿は1件、と目標の16件を達成した。2022年度より少なかったが(2022年度:学会発表38件、論文投稿3件)、学生数を考慮すると学会発表は1.38件/名(2022年度1.58件/名)と遜色はなく、学会賞表彰2件も評価できる。	学会発表国際1件(筆頭1件)・国内21件(筆頭17件) 紀要投稿1件(筆頭、査読あり) 学会表彰2件	研究計画進行の迅速化を図る。 ・人を対象とする研究において、倫理審査申請書の適切な作成を指導する。 ・研究室間の情報共有を円滑に遂行できるようサポートする。
5.ディプロマ:2022年度入学者16名に対する修了者100%(KPI)を目標とする。(1)研究計画立案の力をつける。(2)中間発表において進捗状況を確認する。(3)修士論文提出時の完成度が「研究科内で見えるようになる」。	(1)1年次4月に全員が研究計画を提出した。(2)2年次7月に中間報告を行った(1名は別途実施)。(3)原則、修士論文の締切後は修正しないことを確認し、研究科委員会に報告することとした。	3項目全て実施(100%)	2年次在学学生16名全員が修了し、目標を達成した。修士論文最終審査・合否判定会議で数名が軽微な修正となったが、いずれも合格した。提出期限は厳守された。前年度、修士論文提出時点での完成度についても指導教員が責任を持つことを確認した効果が得られた。	修了者16名/2022年度入学者16名	ディプロマポリシーの改定内容を引き続き具現化する。引き続き、修士論文最終審査の段階での倫理的な問題発生を防ぐために、2年次7月の中間報告会の発表すべてについて研究倫理審査の必要性と進捗状況を確認する過程を設定し、委員会の中でその結果を共有する。引き続き、修士論文提出時点での完成度を上げるために、提出期日を12月後半～下旬に設定する。

2024年度 保健医療科学研究科

PLAN(計画)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。
1.アドミッション:定員20人の確保を目指す(KPI)。(1)2025年度入学を実施する。(2)長期履修制度を導入する。(3)学部学生に修士論文中間発表会・最終試験への参加を促す。(4)オンライン個別相談・説明会を行い、応募者を募る。(5)オープンキャンパスでの説明会・研究成果のポスター掲示などを行う。(6)各職域の学会や研修会等でアピールする。
2.カリキュラム:授業アンケートでの授業評価4.9(KPI)を目標とする。(1)科目シラバスとディプロマ・ポリシーの関連を確認し、適切なカリキュラム構成を保障する。(2)オンラインシステムと対面授業の双方の環境を維持し、授業内容を充実させる。(3)多様な学修動機・目的に応える。(4)適正な教員組織の維持を図る。(5)GCIとの連携を図る。
3.アセスメント:学修ルーブリックでの自己評価3.4以上(KPI)を目標とする。(1)英語力を上げる。(2)論文作成に関する指導を充実させる。
4.研究:大学院生筆頭の年間学会発表・論文投稿数の目標を2年次在籍者数17と同じ17件(研究KPI)とし、2年間で1人あたり1件以上の学会発表・論文投稿を目指す。(1)研究発表を研究科のホームページで公開し、発表を奨励する。(2)研究発表・論文投稿について大学院生同士で情報交換する場を設ける。(3)人を対象とする研究において、倫理審査申請書の適切な作成を指導する。
5.ディプロマ:2023年度入学者17名に対する修了者100%(KPI)を目標とする。(1)研究計画立案の力をつける。(2)中間発表において進捗状況を確認する。(3)修士論文提出時の完成度が「研究科内で見えるようになる」。

2023年度 保健医療科学研究科(結果)

PLAN(計画)	DO(実施)		CHECK(評価)		ACITON(次への改善)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。	D:計画を実行しその効果を測定する。	実施状況(実施率)	C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。	評価	A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる
6. B's Vision 2024に向けての取り組み (1)国際化に対応した地球市民の育成 対話力をつける。 (2)ストレス耐性を持った人材の育成 研究発表に向けて協働する。 (3)永久サポート大学 修了生との対話の場を設ける。 (4)教育力日本一 議論を深める機会を設ける。	(1)修士論文の表と図を原則として英語で記述することを研究科で確認し、遂行した。海外機関との連携を模索中。 (2)学生間で研究活動を協働できるよう支援した。 (3)修了生に修士論文中間報告会・最終試験への参加を促した。 (4)学修ルーブリックで自身の振り返りと議論を促進した。	4項目全て実施(100%)	(1)国際学会発表で英語力が発揮される機会が増えた。 (2)学修ルーブリックでは災害知識・災害行動の達成度が3.41と昨年度より0.11上がり、平均的目標水準よりやや優れていた。 (3)修了生全員の就職が決まった。修了生の修士論文中間報告会・最終試験への参加が数名あり、活発な討議があった。 (4)学修ルーブリックでは課題発見・課題解決の達成度が3.81と昨年度より0.29上がった。	国際学会発表(筆頭)1件 学修ルーブリック災害知識・災害行動の達成度平均3.41。 就職16名/16名 学修ルーブリック課題発見・課題解決の達成度3.81。	英語による研究成果の発表に挑戦することを奨励する。学会誌・紀要への論文投稿を推奨し、指導する。大学院生が修了生と交流する機会を作る。大学院生と教員が自由に議論する時間を設ける。

2024年度 保健医療科学研究科

PLAN(計画)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。
6. B's Vision 2024に向けての取り組み (1)国際化に対応した地球市民の育成 対話力をつける。 (2)ストレス耐性を持った人材の育成 研究発表に向けて協働する。 (3)永久サポート大学 修了生との対話の場を設ける。 (4)教育力日本一 議論を深める機会を設ける。